



平安だより

令和2年4月号 平安幼稚園

「みんなちがって、でもみんな愛されている」

牧師・園長 北川正弥

『すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。だから、多くの部分があっても。一つの体なのです。目が手に向かって「お前は要らない」とは言えず。また、頭が足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません。それどころか体の中で他よりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。』

新約聖書 コリントの信徒への手紙一
12章19〜22節

2020年度、平安幼稚園の園長に就任いたしました北川正弥と申します。今、いろいろなところで人材不足が叫ばれています。実は教会も同じです。前任の長村牧師（園長）の辞任が決まった後、世田谷平安教会は後任の牧師を探しましたが、ふさわしい方を見出すことが出来ませんでした。そこで今新宿南口から徒歩8分の場所にある、代々木中部教会という教会で牧師をしており、ます私が、世田谷平安教会に牧師が見つかるまでの間、代務（牧師代理）と園長を務めさせていただくことになったのです。副園長の山口先生をはじめ、平安幼稚園の全ての先生方と、職員の皆様方と共に、祈りと思いを合わせつつ、大切なお子様方をお預かりいたしますので、どうぞよろしく願います。

実は私にも三人の子どもがおり、下の二人は平安幼稚園の卒園生です。園児の父として、お兄ちゃんを二年、妹を三年通わせました。それが今回、私が園長に就任することになった理由の一つです。

三人の子供を育てる中で、特に子ども達の幼稚園時代のことを思い出しますと、同じ親から生まれ、同じ家に育ち、同じご飯を食べているのに、顔はそっくりでも、どうしてこんなに違うのだろうかと思わされることばかりでした。唯一平安幼稚園の卒園生でない一番上のお姉ちゃんは、幼稚園入園式から泣き通しで、入園式の写真でも他の新入園のお友だちがきれいに並んでいる中、一人だけ僕に抱っこされたまま写っています。その後一年間はずっと先生のうしろをひたすら追いかけて過ごしたそうです。年中組から平安幼稚園に入園したお兄ちゃんも、自分から気配を消していました。一人は嫌なのになかなか友達と交われないお姉ちゃんに対して、あえて一人でいることを好み、誰とも極力交わろうとしないのがお兄ちゃんでした。アラジンと魔法のランプの劇をやることになって、「なんの役をやりたいの？」と聞いたところ、最初から一番目立たない「町の人」がいいというのですから、親としてはちょっと寂しい気持ちでした。ところが一番下の妹は、交われない姉、あえて交わらない兄に対して、すぐに好きな男の子ができて、できたらずぐに告白して、すぐに彼女になろうとする積極性・それはそれで驚きでした。同じ親から生まれてもこんなに違うのですから、お子様方一人一人がみんな違うのは当然のことです。だからこそ一番大事なことはどんなに違っていても、みんなが神様に愛されていて、みんながこの世界に必要とされている、ということだと僕は思います。冒頭に記した聖書の言葉は、そのような意味の言葉です。幼稚園は多くのお子様方にとって、初めて家族以外の「他者」と出会う場所です。だからこそ、平安幼稚園では、「みんなちがって、でもみんな愛されている」ということをみんなに感じてもらいたいと願っています。